

修 正 後		現 行	
(1) 総合学科（滝川西高等学校と滝川工業高等学校による場合）		(1) 総合学科（滝川西高等学校と滝川工業高等学校による場合）	
メリット	・単位制による早い段階からの生徒の自発的な学習意欲の向上 ・各系列から自己のニーズに応じた科目選択が可能 ・ガイダンス機能の充実によるきめ細かな進路指導の実施 ・少人数教育によるきめ細かな指導の実現 ・総合学科という新しい選択肢の子どもたちへの提供 ・北海道教育委員会の学区内に1校総合学科を設置しようという推進方針と一致（新しいタイプの高校の推進）	メリット	・単位制による早い段階からの生徒の自発的な学習意欲の向上 ・各系列から自己のニーズに応じた科目選択が可能 ・ガイダンス機能の充実によるきめ細かな進路指導の実施 ・少人数教育によるきめ細かな指導の実現 ・総合学科という新しい選択肢の子どもたちへの提供 ・北海道教育委員会の学区内に1校総合学科を設置しようという推進方針と一致（新しいタイプの高校の推進）
デメリット	・<u>滝川市においては、職業学科による積み上げ型の技術習得や資格取得ということが望まれていることから、総合学科はなじみにくい。</u> ・教員の人的負担に頼った運営となりやすい。 ・都市部と異なり、外部講師の確保が容易ではない。 ・他学区の例において、生徒の志望動機が、総合学科だからではなく成績がその学校に適合するからという傾向もみられる。 ・<u>総合学科における商業系列や工業系列を卒業しても、職業学科と異なり、企業において再教育を要する可能性が高くなる。</u> ・初期に大きな整備費用を要する。	デメリット	・<u>この地域においては、より高い専門技術の習得や資格取得が望まれており、職業学科における専門性の低減（特に工業学科）が指摘される総合学科は望ましくない。</u> ・教員の人的負担に頼った運営となりやすい。 ・都市部と異なり、外部講師の確保が容易ではない。 ・他学区の例において、生徒の志望動機が、総合学科だからではなく成績がその学校に適合するからという傾向もみられる。 ・<u>施設設備が軽装備となり専門学科における実習活動が単科校と比べ難しくなる。</u> ・初期に大きな整備費用を要する。<u>（財政的な問題から道立への移管が必要となる可能性が高い。）</u>
(2) 学科集合型校（滝川工業高等学校施設の産業キャンパス活用） 滝川高等学校と滝川工業高等学校による場合 滝川西高等学校と滝川工業高等学校による場合		(2) 学科集合型校（滝川工業高校施設の産業キャンパス活用） 滝川高等学校と滝川工業高等学校による場合 滝川西高等学校と滝川工業高等学校による場合	
メリット	共通 ・異なった学科間の連携による多様な選択履修や施設設備の効率的な活用が可能 ・<u>北海道工業高等学校長会において、工業科の単科校での維持が困難な場合は次善策とされている。</u> ・<u>滝川工業高校の現施設・設備を産業キャンパスとすること</u>	メリット	共通 ・異なった学科間の連携による多様な選択履修や施設設備の効率的な活用が可能 ・<u>道工業高校長会においても工業学科の単科校での維持が困難な場合は次善策とされている。</u> ・<u>工業高校の現施設・設備を産業キャンパスとすること</u>

修 正 後			現 行		
デ メ リ ット	共 通	とにより)単科校と同水準の施設・設備の保持が可能)初期整備費用の縮減	共 通	デ メ リ ット	より)単科校と同水準の施設・設備の保持が可能)初期整備費用の縮減
		・道立高校同士による統合につき移行手続きが容易			・道立高校同士による統合につき移行手続きが容易
		・職業学科単科校との統合においては、普通科単科校と比較した場合に、 <u>職業学科併置校の方が不具合が減少する可能性がある。</u>			・職業学科単科校との統合においては、普通科単科校 <u>よりも職業学科併置校の方が望ましい。</u>
	共 通	・学科集合型は、もともと単科校が困難である場合の次善策という要素が大きく、現在滝川市のおかれている状況下では、 <u>単科校の維持が望まれる。</u>	共 通	デ メ リ ット	・学科集合型は、もともと単科校が困難である場合の次善策という要素が大きく、現在の滝川市のおかれている状況下では、 <u>単科校が維持できる場合において積極的に実施するメリットは少ない。</u>
		・ <u>工業科専門</u> の教員の減少による専門性の低減			・ <u>工業学科専門</u> の教員の減少による専門性の低減
		・産業キャンパス化により遠隔地での実習を行う非効率性が生じる。			・産業キャンパス化により遠隔地での実習を行う非効率性が生じる。
共 通	・普通科志向の強い滝川高校と滝川西高校が特に職業学科志向の強い滝川工業高校と統合する場合、学校として目標とする理念が異なり、学校経営がより複雑となる。	共 通	デ メ リ ット	・普通科志向の強い滝高と西高が特に職業学科志向の強い工業高校と統合する場合、学校として目標とする理念が異なり、学校経営がより複雑となる。	
	・6又は7間口校と3間口校の統合により大規模校となることから、適正規模校（4～8間口）への調整を要する。			・6又は7間口校と3間口校の統合により大規模校となることから、適正規模校（4～8間口）への調整を要する。	
	・進学校としての滝川高校の学力への影響			・進学校としての滝川高校の学力への影響	
共 通	・職業学科の中でも特に専門性の高い工業科との統合により学校経営バランスへの影響	共 通	デ メ リ ット	・職業学科の中でも職業学科色の強い工業学科との統合により学校経営バランスへの影響	
	・工業科の施設・設備の維持にかかる財政負担			・ <u>工業学科の施設・設備の維持にかかる財政負担（財政的な問題から道立への移管が必要となる可能性が高い。）</u>	

(3) 滝川工業高等学校の単科校維持による3校体制

メ リ ット	・市内のみならず学区内で唯一の工業科であることから、地域の第2次産業を支える人材育成という観点で、現状で最も専門性を発揮しやすい工業科単科校がこの地域にとって望ましい。
--------------	--

(3) 滝川工業高等学校の単科校維持による3校体制

メ リ ット	・市内のみならず学区内で唯一の工業学科であることから、地域の第2次産業を支える人材育成という観点で、現状で最も専門性を発揮しやすい工業学科単科校がこの地域にとって望ましい。
--------------	--

修 正 後	現 行								
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="246 236 302 627"></td><td data-bbox="302 236 1108 627"> ・<u>工業科</u>単科校の強い就職率・推薦進学卒の保持が可能 ・産業キャンパスと異なり１校内で効率的な運営が可能 ・現在の市内３校におけるそれぞれの役割分担により子どもたちにとって幅広く分りやすい選択肢を提供可能である。 ・現時点での<u>滝川工業高校</u>土木科を除いた各校の状況を踏まえると、地域性を生かした良好な学校経営となっている。 ・<u>工業科</u>という新しい環境において、中学校卒業時までに勉強に苦手意識を覚えている子どもに再チャレンジの道が拓ける。 ・特に<u>工業科</u>の卒業生は、卒業後３年間に<u>おける離職率が低い。</u> </td></tr> <tr> <td data-bbox="246 627 302 866">デメリッ</td><td data-bbox="302 627 1108 866"> ・今後の生徒数減少により現状の３校によるバランスが保持困難となるおそれがある。 ・特に<u>滝川工業高校</u>の間口減は、今年度示されてもおかしくない状況であり、その場合に<u>北海道教育委員会</u>による統廃合の可能性も生じる。 </td></tr> </table>		・<u>工業科</u>単科校の強い就職率・推薦進学卒の保持が可能 ・産業キャンパスと異なり１校内で効率的な運営が可能 ・現在の市内３校におけるそれぞれの役割分担により子どもたちにとって幅広く分りやすい選択肢を提供可能である。 ・現時点での<u>滝川工業高校</u>土木科を除いた各校の状況を踏まえると、地域性を生かした良好な学校経営となっている。 ・<u>工業科</u>という新しい環境において、中学校卒業時までに勉強に苦手意識を覚えている子どもに再チャレンジの道が拓ける。 ・特に<u>工業科</u>の卒業生は、卒業後３年間に<u>おける離職率が低い。</u>	デメリッ	・今後の生徒数減少により現状の３校によるバランスが保持困難となるおそれがある。 ・特に<u>滝川工業高校</u>の間口減は、今年度示されてもおかしくない状況であり、その場合に<u>北海道教育委員会</u>による統廃合の可能性も生じる。	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="1243 236 1299 627"></td><td data-bbox="1299 236 2103 627"> ・<u>工業学科</u>単科校の強い就職率・推薦進学卒の保持が可能 ・産業キャンパスと異なり１校内で効率的な運営が可能 ・現在の市内３校におけるそれぞれの役割分担により子どもたちにとって幅広く分りやすい選択肢を提供可能である。 ・現時点での<u>工業高校</u>土木科を除いた各校の状況を踏まえると、地域性を生かした良好な学校経営となっている。 ・<u>工業学科</u>という新しい環境において、中学校卒業時までに勉強に苦手意識を覚えている子どもに再チャレンジの道が拓ける。 </td></tr> <tr> <td data-bbox="1243 627 1299 866">デメリッ</td><td data-bbox="1299 627 2103 866"> ・<u>北海道教育委員会</u>により他市に総合学科が設置された場合など、市内の<u>定員に不利な状況への変化が心配される。</u> ・今後の生徒数減少により現状の３校によるバランスが保持困難となるおそれもある。 ・特に<u>工業高校</u>の間口減は、今年度示されてもおかしくない状況であり、その場合に<u>道教委</u>による統廃合の可能性も生じる。 </td></tr> </table>		・<u>工業学科</u>単科校の強い就職率・推薦進学卒の保持が可能 ・産業キャンパスと異なり１校内で効率的な運営が可能 ・現在の市内３校におけるそれぞれの役割分担により子どもたちにとって幅広く分りやすい選択肢を提供可能である。 ・現時点での<u>工業高校</u>土木科を除いた各校の状況を踏まえると、地域性を生かした良好な学校経営となっている。 ・<u>工業学科</u>という新しい環境において、中学校卒業時までに勉強に苦手意識を覚えている子どもに再チャレンジの道が拓ける。	デメリッ	・<u>北海道教育委員会</u>により他市に総合学科が設置された場合など、市内の<u>定員に不利な状況への変化が心配される。</u> ・今後の生徒数減少により現状の３校によるバランスが保持困難となるおそれもある。 ・特に<u>工業高校</u>の間口減は、今年度示されてもおかしくない状況であり、その場合に<u>道教委</u>による統廃合の可能性も生じる。
	・<u>工業科</u>単科校の強い就職率・推薦進学卒の保持が可能 ・産業キャンパスと異なり１校内で効率的な運営が可能 ・現在の市内３校におけるそれぞれの役割分担により子どもたちにとって幅広く分りやすい選択肢を提供可能である。 ・現時点での<u>滝川工業高校</u>土木科を除いた各校の状況を踏まえると、地域性を生かした良好な学校経営となっている。 ・<u>工業科</u>という新しい環境において、中学校卒業時までに勉強に苦手意識を覚えている子どもに再チャレンジの道が拓ける。 ・特に<u>工業科</u>の卒業生は、卒業後３年間に<u>おける離職率が低い。</u>								
デメリッ	・今後の生徒数減少により現状の３校によるバランスが保持困難となるおそれがある。 ・特に<u>滝川工業高校</u>の間口減は、今年度示されてもおかしくない状況であり、その場合に<u>北海道教育委員会</u>による統廃合の可能性も生じる。								
	・<u>工業学科</u>単科校の強い就職率・推薦進学卒の保持が可能 ・産業キャンパスと異なり１校内で効率的な運営が可能 ・現在の市内３校におけるそれぞれの役割分担により子どもたちにとって幅広く分りやすい選択肢を提供可能である。 ・現時点での<u>工業高校</u>土木科を除いた各校の状況を踏まえると、地域性を生かした良好な学校経営となっている。 ・<u>工業学科</u>という新しい環境において、中学校卒業時までに勉強に苦手意識を覚えている子どもに再チャレンジの道が拓ける。								
デメリッ	・<u>北海道教育委員会</u>により他市に総合学科が設置された場合など、市内の<u>定員に不利な状況への変化が心配される。</u> ・今後の生徒数減少により現状の３校によるバランスが保持困難となるおそれもある。 ・特に<u>工業高校</u>の間口減は、今年度示されてもおかしくない状況であり、その場合に<u>道教委</u>による統廃合の可能性も生じる。								
３ 結論 小委員会において、滝川市内における高等学校の職業学科を含めた再編について、<u>専門的な見地から検討を行った結果、以下の結論を得ました。</u> （１）普通科および職業学科を含めた３校の再編については、次のように<u>考えられる。</u> 総合学科は、子どもたちの幅広い進路希望に対応できる反面、専門性の高い積み上げ型の学習ニーズへの対応が難しい。この地域においては、子どもたちに着実に技術を習得させ、あるいは、資格を取得させることを目指すという、<u>即戦力となる職業人の育成が求められ、現行の職業学科の体制が作り上げられてきた。</u> これらのことから、<u>滝川市においては総合学科の導入については、なじまないと考える。</u> <u>学科集合型は、将来的な状況の変化において検討の余地が残るもの</u>	３．結論 小委員会において、滝川市内における高等学校の職業学科を含めた再編について<u>の検討を専門的に</u>行った結果、以下の結論を得た。 １．普通科および職業学科を含めた３校の再編については、次のように<u>考えた。</u> （１）総合学科は、子どもたちの幅広い進路希望に対応できる反面、専門性の高い積み上げ型の学習ニーズへの対応が難しい。この地域においては、子どもたちに着実に技術を習得させ、あるいは、資格を取得させることを目指すという即戦力となる職業人の育成が求められ、現行の職業学科の体制が作り上げられてきた。 これらのことから、<u>この地域において総合学科の導入については、なじまないと考えた。</u> <u>（２）滝川高校あるいは滝川西高校と、滝川工業高校との学科集合型への</u>								

修 正 後	現 行
<u>の、もともと単科校の維持が困難である場合という要素が大きく、滝川市においては現時点では、子どもたちにより良い教育環境を提供する上で、工業科単科校維持による現行の３校体制の維持が望まれる。</u> (２) 次に、現状の欠員状況、とりわけ<u>滝川工業高等学校</u>における欠員数の推移をみると、一義的には学級減の対象となるところである。しかしながら、<u>滝川工業高等学校</u>は、空知北学区唯一の工業科であり、管内には１万６千人の第２次産業従事者が就労していることから、近年の欠員数だけで単に学級減を行うことは、将来における地域のものづくりを基盤とした産業を支える人材を失うこととなる。さらに、札幌圏や旭川圏から本学区への技能・技術者の流入は考えづらく、とりわけ道立滝川高等技術専門学院の札幌校統合と相まって、建築土木系の人材育成機関が社会人を含めて皆無になることは、<u>本学区のインフラ整備を担う人材確保が難しくなり、この地域における産業経済の衰退が懸念されることから、地域の建設業界も危機感を持っている。</u>このことは、地域を支える人づくりのための「ものづくり産業の人材育成」をうたう北海道の施策とも相容れないものである。 地域としては、<u>滝川工業高等学校</u>の多様な存続策を互いに協議するとともに、北海道として未来を拓く人材育成の拠点としての工業高校の位置付けを指針の中で行うことを強く望むものである。 (３) <u>上記の(１)および(２)から、現時点における市内３高等学校のあり方については、３校体制の維持が子どもたちにとってより望ましい教育環境であると考えらる。</u> <u>しかしながら、今後も生徒数の減少や社会情勢の変化に対応し再編を含めた市内３高等学校のあり方について一層の検討が必要である。</u>	<u>統合は、職業学科の中でも特に専門性の高い工業学科と、普通科を擁し進学希望の多い両校の特性を踏まえたときに、学校経営において一貫性が損なわれ進路指導等が難しくなることが危惧された。</u> <u>(３) これらの議論から、今の滝川市内のそれぞれの高等学校のもつ歴史や役割、特色を維持し、これからの子どもたちにより良い高等学校教育を提供する上において、現行の３校体制を超える有効な方法を得るには至らなかった。</u> ２．次に、現状の欠員状況、とりわけ<u>滝川工業高校</u>における欠員数の推移をみると、一義的には学級減の対象となるところである。しかしながら、<u>滝川工業高校</u>は、空知北学区唯一の工業学科であり、管内には１万６千人の第２次産業従事者が就労していることから、単に近年の欠員数だけで学級減を行うことは、将来における地域のものづくりの人材を失うこととなる。また、札幌圏や旭川圏から本学区への技術者の流入は考えづらく、とりわけ道立滝川高等技術専門学院の札幌校統合と相まって建築土木系の人材育成機関が社会人を含めて皆無になることは、地域の建設業界も危機感を持っている。このことは、地域を支える人づくりのための「ものづくり産業の人材育成」をうたう北海道の施策とも相容れないものである。 地域としては、<u>滝川工業高校</u>の多様な存続策を互いに協議するとともに、北海道として未来を拓く人材養成の拠点としての工業高校の位置付けを指針の中で行うことを望むものである。 ３．<u>しかし、今後の生徒数の減少を考えたとき、滝川市内においても平成２７年度までに１間口以上に相当する５０名の減少が予想されており、市立学校である滝川西高校においても学級減の検討を求められることになるのは必至である。そのため、そのあり方について、再編も含めた検討を早急に行う必要がある。</u>